

私は帯広の森にある「もりの山」の頂上から見る日高山脈が好きなのですが、360度見渡せる築山から望む、広大な畑の先に連なる山々は本当に美しいと感じます。秋が深まるこれからの季節、日高山脈に沈む夕日は絶景だと思います。

6月25日、国内35カ所目、道内7カ所目の国立公園として、日高山脈襟裳十勝国立公園が指定されました。7月20日には、新ひだか町において記念式典が開催され、伊藤環境大臣や鈴木知事をはじめ、地元の代表者が一堂に会し、喜びを分かち合いました。

私たちが日常として眺めている日高山脈ですが、その山並みは襟裳岬から北へ140キロメートルに及び、まさに北海道の背骨と呼ばれるにふさわしい国内最大の国立公園がここに誕生したのだと思うと感慨深いものがあります。

国立公園化の実現は地域の長年の悲願でした。この指定に向けては、平成18年に十勝圏活性化推進期成会による要望を行って以降、周辺自治体（十勝、日高管内13市町村）においても、早期指定に向けた要望活動を行ってききました。

日高山脈の原生的な手付かずの自然が、日本を代表する自然の風景地として評価されたことは大変喜ばしく、誇りに感じるところです。

以前、スノーピークの山井社長と対談した際、「世界初の国立公園アメリカのエローストーンは最寄りの空港から車で数時間かかるけれど、帯広は車で30分も走れば自然豊かなフィールドに着きますよ」と話しておられました。今回の指定で十勝は、日高山脈襟裳十勝国立公園、大雪山国立公園、阿寒摩周国立公園の3つの国立公園に囲まれた日本でも珍しい地域となりました。とち帯広空港から日高山脈襟裳十勝国立公園までは車で35分、他の2つの国立公園にも2時間以内で移動することができ、環境にある十勝・帯広は、豊かな自然のイメージがある北海道の中でも、殊更魅力のある地域といえるのではないのでしょうか。

国立公園というブランド力を後押しに、日高山脈を取り囲む十勝と日高管内の13市町村それぞれが有する地域の魅力がとなり、更に新しい関係性を創出することで、この公園の価値がより高まってくものと考えます。そして原生的な自然を保つ国内最大の広さを誇る国立公園の大切な自然環境をしつかりと守りながら、日高山脈を全国、全世界に誇りうるナショナルパークへと高めていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

ナショナルパーク

帯広市長 米沢 則寿



広報広聴課職員が行く！

オビヒロカメラレポ

OBIHIRO
CAMERA
REPORT

十勝産の野菜や加工品、手作り雑貨などが出品される十勝ファーマーズマーケットが今年も始まりました。朝からたくさんの方が、店をのぞきながらマーケットを何周もしたり、出店の美味しいものを食べたり飲んだり、日陰でくつろいだり、思い思いに楽しんでいました。

9月も14日と28日の土曜日、9～14時に緑ヶ丘公園で開催し、日によって出店者が変わります。さわやかな緑の中でイベントを楽しみませんか。（7月13日、緑ヶ丘公園）



▲マガモの親子がやってくる一幕も

夜行性動物が活発に動く姿を見てもらえるよう、7月27日（土）・28日（日）・8月3日（土）・4日（日）の4日間、今年も「よるの動物園」を開催しました。飼育員によるスポットガイドや動物園ボランティアサークル「ZooFul」によるイベントを実施し、学生や家族連れなどが多く訪れました。

モモンガやライオン、アメリカビーバーなど、昼間とは一味違う動物たちの様子を観察したり、夜の園内の雰囲気や遊具を楽しむ人たちの姿が見られました。（7月27日、動物園）



大会公式
ホームページ▶



とかちをラリーカーが駆け巡る ラリー北海道2024

問い合わせ 国際ラリー支援歓迎実行委員会（西2南12、帯広駅エスタ内、☎22・8600）、観光交流課（市庁舎7階、☎65・4169）

昨年、国内外から75台のラリーカーが参戦し、約4万5000人の観客を動員したラリー北海道。今年も北愛国交流広場を拠点に、十勝管内各地をラリーカーが疾走します。

競技の前日には駅北多目的広場と平原通にて、セレモニアルスタートを行います。まちなかで、ぜひ世界レベルのラリーカーの迫力を感じてください。

●ラリーショー・セレモニアルスタート

開催日 9月6日（金）、15時30分から
会場 駅北多目的広場（西2南11）、平原通



●競技

開催日 9月7日（土）、8日（日）
会場 北愛国交流広場（愛国町10）ほか
開催市町村 帯広市、陸別町、音更町、足寄町、池田町



●交通規制にご協力ください

9月6日（金）10時から20時までの間、右図のとおり交通規制を行います。

ご理解、ご協力をお願いします。
※時間は変更になる場合があります。

